



《将来に向けた取組方針》

東京電力グループは、生物多様性がもたらす様々なサービスが事業活動に必要な不可欠であるとの認識のもと、SDGsの目標15の達成とともに、事業活動に係る地域や一部が社有地となっている尾瀬国立公園での生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組みを進めてまいります。

- ① 生物多様性保全に向けた活動
- ② 環境負荷低減への取組
- ③ 生物多様性に関する理解活動の推進

〈具体的取組み事例〉

東京電力グループは、年間約25万人が訪れる尾瀬国立公園の約4割、特別保護地区の約7割を所有し、約60年にわたり、地域のパートナーとともに生態系の回復と保全活動に取り組んでいます。水源涵養機能を有する所有面積は約16,000haとなり水力発電の水源として大切に管理しています。

① 生物多様性保全に向けた活動

- ・ 湿原が荒廃しないように木道を約20kmにわたり設置
- ・ 希少種が豊かだった湿原の植生回復作業（アヤメ平）
- ・ 外来種進入防止のための種子落としマットの設置

② 環境負荷の低減への取組

- ・ 太陽光発電による発電機用燃料の削減
- ・ 浄化槽の設置による湿原の富栄養化防止

③ 生物多様性保全に関する理解活動の推進

- ・ 東京電力グループ運営の「尾瀬ネイチャーセンター」で生物多様性をテーマに様々な自然保護活動を紹介（年間約1万人の来訪者）
- ・ 尾瀬国立公園の現地の自然解説や、出前授業を通じた生物多様性の理解活動（次世代層を中心とした約1,500人（年間）に現地で解説）



木道の設置



アヤメ平湿原の植生回復作業



登山道入口の種子落としマット



山小屋に設置された太陽光発電パネル



「尾瀬ネイチャーセンター」の展示



尾瀬国立公園での自然解説